

JISA Digital Masters Forum 2016 【経験報告】

JISA Spirit に沿った経験報告を広く募集し、採択された論文の発表です。

14:30 ~ 15:15 16	<p>『マイクロサービスアーキテクチャの実践』 齊藤 稔 (東芝ソリューション株式会社 ソリューションセンター ソリューション生産技術部 生産技術担当)</p> <p>システム開発のアプローチは、データを記録し蓄積するSoR(Systems of Record)だけでなく、外部のサービス、人とも連携するSoE(Systems or Engagement)が重要となっている。SoEを実現する手段の1つとしてマイクロサービスアーキテクチャがある。当社ではマイクロサービスアーキテクチャを推進し、開発基盤やガイドラインの開発を行っている。本報告では、当社で実施したマイクロサービスアーキテクチャを採用したシステム開発の事例を紹介し、マイクロサービス化で考慮すべき観点や、開発プロセスで工夫した点を紹介する。</p>
14:30 ~ 15:15 17	<p>『プロセス分析に基づくドキュメント再構成によるプロセス改善 ~車載通信モジュール開発における実施と効果予測~』 小島 裕次 (株式会社デンソー 情報通信技術3部 第4技術室)</p> <p>これまで社内では、CMMIやAutomotive-SPICEなどのモデルを使用したプロセス改善を推進してきた。しかし、モデルによる改善は推進者が現場のプロセスよりも、モデルへの準拠を重視したため、現場に定着するのが難しかった。そこで、我々は現場のプロセス分析に基づいたプロセス改善を実施した。具体的な方法は次のとおりである。最初に、不具合情報の分析とプロセス分析から、問題のドキュメントを特定する。そして、問題のドキュメントに記載されている情報の有用性を分析し、分析結果に基づいてドキュメントを再構成することによりプロセスを改善する。以上により、現場が受け入れやすいプロセスを設計でき、ドキュメントの品質改善、コスト削減の効果が期待できることを確認した。</p>
15:30 ~ 16:15 21	<p>『「あるある診断ツール」による保守 / 運用課題の可視化実践』 室谷 隆 (T I S株式会社 生産革新本部 生産革新部主査)</p> <p>「あるある診断ツール」は、 ・だれでも簡単に(約30分)、現在のプロジェクトの状態をチェックするだけで改善課題を可視化できる、エクセルで作られたツールである。 社内の保守PJや、運用PJに適用した結果、以下の効果が分かり、有用であることを確認した。 ・PJの課題が明確になり、改善策が立案可能 ・改善の前後比較で改善効果を可視化 ・設問は標準準拠のため、課題を改善するだけで標準に準拠可能 ・PJメンバーの認識相違が明確になり、コミュニケーションが活性化 →風通しの良い組織へ ・顧客との認識相違が明確になり、コミュニケーションが活性化し、顧客と合意すべき改善ポイントが明確化 →顧客満足度の向上 ・排除、削減、低減しなければならない課題の認識 →eラーニングと同等の教育効果</p>
15:30 ~ 16:15 22	<p>『チケット駆動開発基盤とプロダクトライン型開発の融合手法の検討と評価実験』 宮本 陽一 (三菱スペース・ソフトウェア株式会社 鎌倉事業部 宇宙第一技術部)</p> <p>当社既製品の派生開発では、非効率な再利用(場当たり的な再利用)という課題に直面している。再利用性の効率を上げるアプローチとしてプロダクトライン型開発への早期移行を試みる中、当社の開発を支える開発手法や環境(チケット駆動開発基盤)にプロダクトライン型開発を融合させる方法(Feature on TIDD)を見出した。本報告は、その融合方法と評価実験を行った結果に関する事例報告である。</p>
16:30 ~ 17:00 26	<p>『ICT利用による二次交通活性化と地域活性化』 高野 元 (株式会社ユニ・ランド 代表取締役社長)</p> <p>国が地方創生という言葉とともに、高齢化・過疎化する地方について様々な施策や補助金等で支援している中で、利用者減少のため地元の方々の足となるべく二次交通を担っているバス会社の体力が落ちてきており、路線の縮小や廃線が相次いでいる。地方というのは、交通の足が無くなると急速に廃れていくため、そのような状態にならないためにも二次交通の主役であるバス事業を活性化させる必要があった。そこで、地方のバス会社で40年ぶりに前年度の利用者数を増加させるという業界において驚異的なことを成し遂げた、北海道帯広市の十勝バス株式会社の取り組みをITの力でアプリ化した。路線検索・バスロケーション・観光アプリ等により、地元利用者のみならず出張で訪れた人や観光旅行者、またはインバウンドと表現される海外からの旅行者にとって有用でかつ路線バスを積極的に利用してもらい仕組みを開発・リリースをした。また、得られた様々なデータから、戦略的な路線計画や運行計画の策定についても、将来的に実施できるよう大学と研究を開始している。</p>
16:30 ~ 17:00 29	<p>『外販を見据えた社内標準基盤整備プロジェクトにおけるアジャイル・クラウド活用事例報告』 井場 辰彦 (株式会社シーエーシー ソリューションカンパニー ソリューションビジネス部 技術企画サービスプロデューサー)</p> <p>CAO開発プラットフォーム「AZAREA」の開発プロジェクトに関する開発事例報告。従来型の受託開発向けの開発プロセスとは異なる、製品・サービス開発プロジェクトに適した開発プロセス構築に向けたアプローチ(アジャイル開発的なアプローチ)と、震災を契機に必要性が増加した、テレワーク可能な開発インフラの構築に関する報告。</p>
17:00 ~ 17:30 27	<p>『デジタルビジネス時代の業務分析 (Digital Business Analysis) の提案と評価』 山口 一郎 (東京ガス i ネット株式会社 システム監理部 品質監理グループ グループマネージャー)</p> <p>近年、社会的ニーズや価値観が大きく変化し、それに対応するため業務分析を用いた業務企画も先進的ITを活用し、業務プロセス改革に迫られている。一方、従前の情報システム化企画の進め方ではIT活用検討が不十分で業務改革が進まず、経営ニーズに十分こたえられないという課題がある。そこで、業務と情報システムは不可分であるとの認識から、先進的企業の事例を基に「IT活用検討を促進するデジタルビジネスアナリシス」として業務分析プロセスを提案する。</p>
17:00 ~ 17:45 30	<p>『組織内アジャイルエバンジェリストのためのパターンランゲージ』 福田 朋紀 (リコーITソリューションズ株式会社 ITソリューション事業部 アジャイルエバンジェリスト)</p> <p>本報告では、企業内におけるアジャイル展開・推進活動におけるより活動について考え、コミュニケーションをはかり、実施していくためのツールとして、「アジャイルエバンジェリスト・ランゲージ」を提案する。実際にアジャイルエバンジェリストとして活動した際の教訓をパターン・ランゲージにすることで、アジャイルのアプローチや技法を伝える役割を果たす場合において、担当者がより良く行動できることを目指している。</p>
17:30 ~ 18:00 28	<p>『ベンチマークデータの分析に基づく品質改善マネジメントの実践』 佐伯 正夫 (独立行政法人情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア高信頼化センター システムグループ 専門委員)</p> <p>IPA/SECは、多数の完了プロジェクト・データに基づく公開ベンチマークとして「ソフトウェア開発データ白書」を定期的に発行して、定量的管理(特にベンチマーキング)の普及促進を図っている。しかしながら現状では、同書を利用した代表的なベンチマーキング・シーンは主に見積りの妥当性評価であり、ベンチマーキング本来の「改善を目的としたベンチマーキング」、特に「品質マネジメント推進のためのベンチマーキング」については普及しているとは言い難い。そこで同書データベースを利用して具体的な品質マネジメント改善に向けた分析を重ねた結果、品質改善に関する種々の知見が得られた。 (例1) 上流工程での不具合抽出比率を高めることによって、信頼性向上を図ることができる。 (例2) 経済性を勘案した設計レビュー工数の強化目標として、約10人時/KSLOCが目安になる。 (例3) 計画工期が厳しい(標準的工期より短くて開発工程の重なりがあると)、信頼性が低下する。 その内容に内部ベンチマークを利用したIT企業のベンチマーキング事例を追加掲載した「統計指標に基づく品質マネジメント実践集」を作成し、公開した。なお、本成果は具体的なベンチマーキング方法の手引としても活用できる。</p>

JISA Digital Masters Forum 2016



Digital Business in Action ~いまこそ、ソフトウェアで「!(革命)」を~

平成28年
10月21日 金 9:50-19:30

東京コンベンションホール
 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン5F

<招待講演> 10:00 ~ 10:45
『人工知能はビジネスをどう変えるか』
矢野 和男
 (株式会社日立製作所 理事 研究開発グループ技師長 兼 人工知能ラボラトリ長)



人工知能が注目されている中で実はビジネスの成果はなかなか出ていない。ビジネスの成果につながる人工知能のために何が必要かを解き明かす。14分野57案件を超える実適用のユースケースを使い、今後を展望する。

【プロフィール】 1984年(株)日立製作所入社。2004年から先行してウェアラブル技術とビッグデータ収集・活用で世界を牽引。論文被引用2,500件、特許出願350件超。のべ100万日を超えるデータを使った企業業績向上の研究と心理学や、人工知能からナノテクまでの専門性の広さと深さで知られる。特にウェアラブルによるビジネスや充実感の定量化に関する研究で先導的な役割を果たす。工学博士。IEEE フェロー。



東京メトロ銀座線「京橋駅」3番出口直結

JISA Digital Masters Forum 2016 プログラム (午前)

11:00 ~ 12:20 **04**
 <チュートリアル> 『**今回の人工知能のブームは本物か**』
松原 仁 (公立はこだて未来大学 副理事長)

現在人工知能は3回目のブームを迎えている。囲碁でコンピュータがトッププロ棋士に勝つ、コンピュータと人間が創作した小説が文学賞の一次審査を通るなどのニュースが大きく取り上げられている。これまでの2回のブームは期待外れに終わってその後人工知能は冬の時代を迎えた。今回のブームが3回目目の正直かあるいは2度あることは3度あるのかを考えたい。
 ※ 講師とのディスカッション時間を設けています

【プロフィール】 1986年東大大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。工学博士。同年通産省工技院電子技術総合研究所(現産業技術総合研究所)入所。2000年公立はこだて未来大学教授。2016年同副理事長。情報処理学会理事、観光情報学会理事、人工知能学会前会長。著書に『将棋とコンピュータ』、『鉄腕アトムは実現できるか』、『先を読む頭脳』(共著)、『一人称研究のすすめ』(共著)、『観光情報学入門』(共著)、『人工知能とは』(共著)など。



11:00 ~ 12:20 **03**
 <パネルディスカッション> 『**デジタルビジネスの先駆者たち**』
 モデレーター: **田口 潤** (株式会社インプレス 編集主幹)

パネリスト:
矢野 和男 (株式会社日立製作所 理事 研究開発グループ技師長 兼 人工知能ラボラトリ長)
小野 和俊 (株式会社セゾン情報システムズ 常務取締役 / 株式会社アプレッソ 代表取締役社長)
 【プロフィール】 1999年サン・マイクロシステムズ(株)入社後まもなく米国 Sun Microsystems, Inc.での開発を経験し、2000年より(株)アプレッソ代表取締役に就任、データ連携ミドルウェア DataSpider を開発する。2002年には DataSpider が SOFTIC ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞。2004年度末踏ソフトウェア創造事業 Galapagos プロジェクト共同開発者。2013年より(株)セゾン情報システムズSHULFT事業CTO、2014年より他事業部も含めたCTO、2015年より取締役 CTO、2016年より常務取締役 CTOを兼任。
竹村 大助 (日本システムウェア株式会社 ITソリューション事業本部 ビジネスイノベーション事業部 事業部長)
 【プロフィール】 クラウド・IoTサービス事業などの企画・提供部門の責任者。ITベンチャーを経て2001年に同社入社。エンジニアとして業務をこなす傍ら、新サービスの企画や新ビジネス立ち上げなどを経験。2010年にサービス事業専門部隊を立ち上げ、インフラからアプリケーションまで幅広いサービスを展開。Sierのビジネスモデル変革にチャレンジする日々を送っている。
山谷 正己 (Just Skill Inc.社長/名桜大学客員教授) ※シリコンバレーからweb参加予定
 【プロフィール】 日本アイビーエムを経て1980年に渡米。米国IBM、米国Amdahlにて仮想計算機(VM)の開発に従事。その後独立してシリコンバレーに同社を設立。最新ITビジネスのコンサルティング、トレーニングに専念。



一般社団法人情報サービス産業協会 JDMF2016実行委員会

お問合せ: 赤尾・大原・上遠野 Tel: (03)6214-1121 Email: jdmf-staff@jisa.or.jp

JISA Digital Masters Forum 2016 プログラム (午後)

12:30 ～ 14:00 05	<ランチョンセミナー> 『サイバー攻撃の現状と保険を活用したリスクファイナンス ～JISA情報サービス業賠償責任保険制度のご紹介(仮)～』 ※別途お申込みが必要です サイバー攻撃の手法、傾向、侵害などのサイバーセキュリティの現状をご説明し、セキュリティ投資で賄いきれない部分に保険を活用するリスク管理についてご紹介します。
12:30 ～ 14:00 06	<ランチョンセミナー> 『カナダ情報サービス業と企業のご紹介 ～ネットワーク&データ・セキュリティにフォーカスして～』 カナダ大使館商務部 ※別途お申込みが必要です カナダ情報サービス業は、北米情報サービス業の知的財産とマンパワー全体の2～3割を占めますが、日本における認知度は高くありません。このセミナーは、カナダ情報サービス業界を概観した後、ネットワーク&データ・セキュリティソリューションの BlueCat Networks https://www.bluecatnetworks.co.jp/ と Absolute Software https://www.absolute.com/ja-JP が、現在どのように日本で展開しているのかをご紹介します。すべて日本語、質疑応答の時間あり。
13:30 ～ 14:15 07	<キーノート> 第1部『破壊的イノベーションの脅威』(13:30～14:15) 第2部『破壊的イノベーターになるための7つのステップ』(14:30～15:15) ※どちらかのみ参加可 玉田 俊平太 (関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 教授) 
14:30 ～ 15:15 08	多くのビジネスパーソンが聞いたことはあるが完全には理解できていない「イノベーション」。中でも誤解している人の多い「破壊的イノベーション」について、①破壊的イノベーションとは何か(=敵を知り)、②何故優良企業であっても破壊的イノベーションに打ち負かされてしまうのか(=己を知り)、③自らが破壊的イノベーションを起こすためにはどのようにすれば良いか(=戦略)について、米国スタンフォード大学のバイオデザイン・プログラムの事例なども紹介しながら、順を追ってわかりやすく解説し、「百戦あやうからず(百回戦っても危険な状態にはならない)」な状態になっていただくことを目指す。 ※ 第1部、第2部どちらかのみ参加可 【プロフィール】 ハーバード大学大学院にてマイケル・ポーター教授のゼミに所属、競争力と戦略との関係について学ぶとともに、クレイトン・クリステンセン教授から破壊的イノベーションのマネジメントについて指導を受ける。筑波大学専任講師、経済産業研究所フェロー等を経て現職。研究・イノベーション学会評議員。平成23年度TEPIA知的財産学術奨励賞「TEPIA会長大賞」受賞。著書に『日本のイノベーションのジレンマ 破壊的イノベーターになるための7つのステップ』(翔泳社、2015年)、監訳に『イノベーションのジレンマ』(翔泳社、2000年)などがある。
13:30 ～ 14:15 09	『技術評価の羅針盤 JISA情報技術マップ2015の紹介 ～2万5千人参加の会員アンケートから探るIT技術動向について～』 山口 陽平 (JISA技術強化委員会 情報技術マップWG 座長) 
13:30 ～ 14:15 10	『IoT時代のリスクの認識と製品開発時の重要ポイントを解説～「つながる世界の開発指針」の策定の背景と実践に向けて』 宮原 真次 (独立行政法人情報処理推進機構ソフトウェア高信頼化センター研究員) 
14:00 ～ 14:20 11	JISA会長からのメッセージ 横塚 裕志 (一般社団法人情報サービス産業協会 会長) 
14:20 ～ 15:10 12	<ワークショップ> 『自由に語ろう！SIの未来 ～オープンセッションで変革の種を持ち帰ろう！～』 第1部『ソフトウェアの変革について考えよう』(14:20～15:10) 第2部『明日から活用できるヒントを見つけよう』(15:20～16:00) ※どちらかのみ参加可 年齢や立場や会社の枠を超え、本音も交えながら自由にオープンに話すことで、アイデア、思い、ひらめき、活動ヒントなど様々なものが得られることでしょう。 普段気づけなかったソフトウェアの魅力に気づき、新たな可能性を見つけてみませんか？体験する話し合いの手法は、会社でもきつと役立ちます！ 【ファシリテーター】角野幸子(NECソリューションイノベータ(株))/八田亜由子(LASSIC(株))/飯野保志((株)Be-Side) 高柳謙(ダイアログデザイン)
14:30 ～ 15:15 15	『ロボットはもう一つの自分の身体たり得るか』 吉藤 健太郎 (株式会社オリィ研究所 代表 / ロボットコミュニケーター) 
14:30 ～ 15:15 14	『系(システム)という世界の見かた』 岡田 龍太郎 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻 情報数理研究室 博士研究員) 

15:30 ～ 16:15 18	『ビッグデータを活用する人工知能技術 ～社会実装の取り組みと課題～』 本村 陽一 (産業技術総合研究所人工知能研究センター 首席研究員) 
15:30 ～ 16:15 20	『髪の毛で音を感じる装置Antenna』 本多 達也 (富士通株式会社 グローバルマーケティング本部 総合デザインセンター) 
15:30 ～ 16:15 19	『屋内位置情報が実現するイノベーションサービス』 鳥居 暁 (ボクシーズ株式会社 代表取締役) 
16:30 ～ 17:15 24	『日本のソフトウェア技術者の生産性及び処遇の向上効果研究 ～アジア、欧米諸国との国際比較分析のフレームワークを用いて～』(仮) 中田 喜文 (同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授) 
16:30 ～ 17:50 25	『IoT産業政策について ～海外の動向と日本企業が起すべき行動～』(仮) 津脇 慈子 (経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 課長補佐) 
16:30 ～ 17:50 23	<Young Innovators Forum> ～会員の、会員による、会員のための事例発表会(第3回)～ 『問題探求型のSEになる』 川口 伊澄 (株式会社インフォメーション・ディベロプメント) 
18:00 ～ 19:30	『AIを生かしたビジネス創出に向けて ～実践の中で考えてきたこと～』 山川 均 (株式会社インテジテクノスフィア) 
	『既存領域からかけ離れた事業で新会社設立に立ち会っている中で感じていること』 熊谷 優 (株式会社ユニ・トランド) 
	『あなたは知らない土地でバスに乗れますか？』2016年5月に発足したばかりの会社 株式会社ユニ・トランド。目的地検索型のバス路線検索サービスや、バスロケーション、その他移動体管理など、BtoB(toC)の事業を手がけています。設立から半年に満たない会社で起きていること、整理券式のバスで運賃の払い方さえ知らなかった私が、たった5人の会社でどのようなことを考え、感じ、仕事をしているのか、以前の仕事とどのように変わったのかをお話できればと思います。